



令和4年度みどり市景観講演会の開催について ～「地域らしさ」を活かした景観まちづくり～

みどり市 都市建設部 都市計画課

■ はじめに

みどり市は、先人から引き継がれた自然・文化・歴史といった特徴ある景観資源を多数有しており、それらを保全・活用しながら新たな地域の魅力を創出し、良好な形で次世代に引き継ぐことができるよう、令和3年4月に景観行政団体へ移行し、同年6月に景観計画を策定しました。

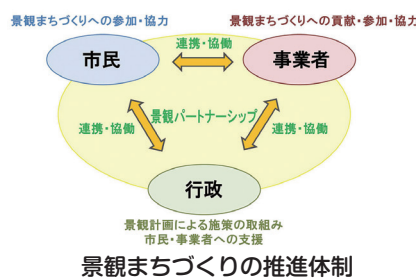
■ 景観講演会

良好な景観形成のためには、市民・事業者・行政が連携して景観まちづくりに取り組むことが重要になることから、令和4年度は82名参加のもと、昭和12年に建てられたみどり市指定重要文化財であり、群馬県では唯一の昭和的な面影を色濃く残した日本的な劇場建築物である『ながめ余興場』にて1月19日(木)に開催しました。

(1) 市長の挨拶

- みどり市は富弘美術館や岩宿遺跡、わたらせ渓谷鐵道といった歴史・伝統・文化が脈々受け継がれてきた
- 本日の講演会がみどり市の新たな良いところ・愛好者の創出に繋がることを期待したい

(2) みどり市景観計画の紹介



会場: ながめ余興場



講演会の様子

(3) 基調講演

<講師> 杉浦 榮

前橋工科大学 工学部 建築・都市・環境工学群 准教授
前橋工科大学大学院 工学研究科 建築学専攻 准教授

<タイトル>

『地域らしさ』を活かした景観まちづくり ―文化的景観の視点から―

<概要>

- 『地域らしさ』を活かした景観まちづくりは、人と環境の関係のありようを探求し、生きていく場を創造すること
- 風景(景観)は、地域の多様性や固有性を表し、地域のアイデンティティを象徴するもの
- 地域の潜在的資源と課題について、様々な環境の要素をスケールごとに図化したリサーチマップからレイヤー分析する手法の紹介



講演会の最後には、講師からどんな暮らしや文化、自然を大切にしたいか。100年後のどんな風景(景観)が『みどり市らしい』か質問が提示され、参加者全員が将来のまちづくりについて考えるきっかけとなりました。

■ おわりに

少子超高齢化や人口減少が進む中で、本市もまちの活性化が急務となっていますので、景観法に基づく様々な施策を活用して地域の魅力がさらに高まるような景観まちづくりを計画的・効果的に推進し、「訪れたいまち」「住みよさを実感できるまち」「住み続けたいまち」の実現を目指していきたいと思います。